

2018年度の

5大 ニュース

01 脱プラスチックの 取り組みがスタート!



商品の容器包装やレジ袋など、組合員のくらしやコープこうべの事業にとってプラスチックは多量に使用されています。これまでもマイバッグ運動やリサイクル活動に取り組んできましたが、持続可能な社会づくりに向け、組合員・職員の声に応え、「脱プラスチック」に関する基本方針を2019年2月に策定し、取り組みに着手しています。

プラスチック使用に関する 基本方針

- 1 環境に配慮した事業・活動を通じて、組合員のくらしを守る生協として、事業および組合員家庭で発生する「使い捨てプラスチックの使用量削減」を目指す。
- 2 使用量の削減が容易なものから順次着手するとともに、短期的に使用量を減らすことができないプラスチック製品については、再生プラ、紙・バイオプラといった代替素材(再生可能資源)への切替え検討やリサイクル活動をすすめる。
- 3 消費者運動と事業体の両面をもつ生協が率先して取り組むことで、地域社会全体の取り組みへと発展させていく。

ラベルレス飲料1本につき2円を 海ごみ清掃活動に寄付

脱プラスチックの取り組みの1つとして、「ラベルレス飲料」の供給を宅配で開始しました。

あわせて、1本につき2円を兵庫県の「生物多様性ひょうご基金」に寄付。基金を通じて、海ごみの清掃活動に取り組む団体を支援しています。また2019年6月1日には「プラスチックごみと未来を考えるシンポジウム」を開催。寄付金の贈呈式も執り行いました。



写真提供:アサヒ飲料㈱

ラベルがないので…

プラスチックの使用量削減

リサイクルの際にはかやす手間がなく便利!

1本につき2円を寄付



清掃活動のイメージ

02 再生可能エネルギーとリサイクルを 組合員と一緒に考えました



組合員や職員が「エネルギー&リサイクル」をテーマに、コープでんきの発電所とリサイクルセンターを見学しました。エネルギー学習では、「コンセントの向こう側」を学ぶ機会として、夏休みに親子を対象にした風力発電所の見学会など、コープでんきの産地を訪ねました。リサイクル学習では、店頭回収のリサイクル品の行方とリサイクル作業を担う障がい者の就労を支援する新たな取り組みにステップアップしている様子を見学しました。一年間で39企画1,071人が参加し、学びました。



コープでんきの産地を訪ねる
～風力発電所の見学の様子～

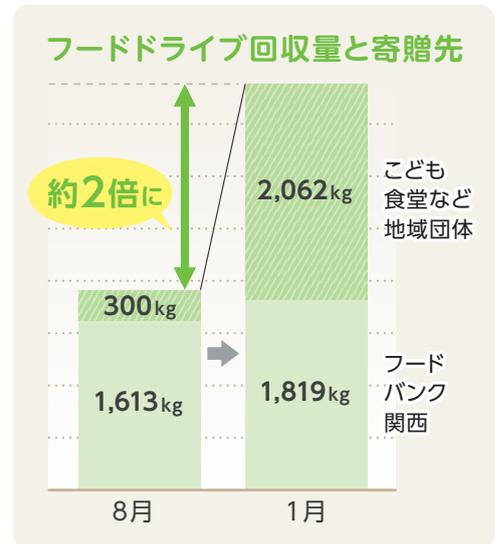


夏休みの親子バス見学会
～鳴尾浜リサイクルセンター見学の様子～

03 フードドライブをはじめとした食を通じた地域支援をすすめました

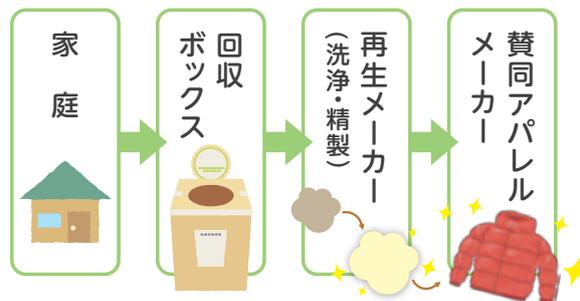
家庭で余っている食べきれない食品を持ち寄り、それを必要としている福祉施設・団体などに寄付する「フードドライブ」を8月と1月の3日間、全店舗で実施し、合計で約6tの食品を受け付けました。集まった食品はフードバンク関西を通じて児童養護施設やひとり親家庭へ提供されたほか、こども食堂など地域団体でも活用されました。家庭から寄せられた善意の食品を、地域で必要とする方が活用する助け合いの仕組みが広がっています。

コープ西宮ではフードドライブ回収ボックスを常設するなど、常時受付の取り組みもはじまっています。



04 不用になった羽毛(ダウン)の回収をスタート! グリーンダウンプロジェクト

羽毛は水鳥から採取される有限な資源です。需要の高まりに対し、羽毛資源は減少傾向です。限りある資源を有効活用する取り組みとして、羽毛布団・ダウンジャケットの回収・リサイクルを開始しました。回収した羽毛製品は、洗浄・精製加工され、再生羽毛(グリーンダウン)として、広く社会で有効利用されます。



2019年5月現在、12店舗で常設の回収BOXを設置

05 SDGsについて組織全体で学びを深めました

コープこうべの事業活動とSDGsとの関係性について、組織全体で学習を深めました。総代研修会では616名が参加。「初めて聞く言葉だったが、生協がこれまでやってきた事業や活動そのもの」、「SDGsのゴールは誰もが望んでいること。組合員として、今後どのように取り組めばよいか話し合っていきたい」といった感想が聞かれました。

また、コープ委員の商品担当者会議でも124名がSDGs学習会に参加。「私たちが現在取り組みを進めている“エシカル消費”は、SDGsを達成するための“手段”であることがよく分かった」との声も聞かれました。



コープ委員の商品担当者会議でのSDGs学習の様子